

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

- ・彦根市議会公政会  
北村収 西川正義 安居正倫 谷口典隆 渡辺史郎 安澤勝 宮田茂雄

(2) 実施日：平成25年7月23日

### 【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

- ・本市の中心市街地の銀座街や彦根駅前商店街においては、郊外等の大型店舗や夢京橋キャッスルロード等に客を奪われて多くの空き店舗が見られ往時の賑わいが失われている。

(2) 本市における課題

- ・銀座通り周辺ではこれまで道路の改良やアーケード、照明灯の改築、空き店舗を利用した銀座芝居小屋等色々試みられているが奏功していない。何らかの方法を講じ往時の賑わいを取り戻すにはどうしたらよいか。

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

- ・鳥取駅前 太平線再生プロジェクトについて

(2) 選定地1：鳥取市

選定地2：

選定地3：

### 【3. 調査結果】

(1) 内容

- 視察先 鳥取市議会事務局
- 日時 平成25年7月23日
- 鳥取市概要  
人口 193,582人（25/4/1現在） 微減状況  
予算規模 85,810百万円（一般会計 H25当初）  
議員数 36人（次回の一般選挙まで 以後は条例定数の32人）
- 鳥取駅前太平線再生プロジェクトの概要

○鳥取駅前の県道4車線道路の延長160m間のうち、61.5mの上空間をスライド開閉式大屋根で覆い、道路幅は2車線に縮めて、生じた余地を芝生広場とし、その一角にコンクリートブロックを敷並べたステージ等を設けてイベント広場を創出。残りの区間は歩道を広くしてベンチや高木を植栽している。この広場を利用して各種のイベントを開催することにより集客を行い駅前商店街の再生と賑わいのまちづくりを目指している。

### 1) 施設構造規模等

- ・大屋根は鉄骨構造で3層となっており、全延長の2/3を電動で開閉移動可能の全天候型としている。屋根部はガラス繊維に樹脂を塗布したシート状のもので耐用年数は15～20年くらいだそうである。演出用カラー照明や防犯カメラ、緊急通報装置、消防用施設、コンセントなどを設置している。
- ・道幅を縮めて作った芝生広場は、面積290㎡一角にインターロッキングブロック（コンクリート製）でステージを作っている。また芝生散水用にスプリンクラーを設けている。バザー広場もある。
- ・道路全幅27.0mの内、車道2車線6.0m歩道5～9.0m ベンチ、植栽、フットライト沿道百貨店のテラスを利用したカフェを設けている。
- ・施設のネーミングは全国公募し2067通より、鳥取の鳥（バード）と屋根（帽子=ハットで「バードハット」としている。
- ・工事費 1,070百万円 平成25年7月7日オープン

### 2) 事業実施の背景

- ・鳥取市内においても居住人口減少、歩行者通行量減少、事業所減少、空き店舗や空き地の増加等により中心市街地の賑わいが失われている。そのため平成19年に「鳥取市中心市街地活性化基本計画」を策定し、鳥取駅周辺地区と鳥取城址周辺地区の2つを核とし、これらを結ぶ若狭街道と智頭街道の2つの軸（2核2軸）を持った都市構造を基本にしたまちづくりを目指しており、太平線再生プロジェクトもその一環の事業である。
- ・平成20年度と21年度の秋の10日間に実証事業（社会実験）を実施、4車線の内2車線を賑わい空間として利用し、地元商店会や地域住民による各種イベント実施、オープンカフェ、バザー、臨時出店、砂像コンテスト、足湯、駐車場無料開放等々を実施して、集客効果を検証している。
- ・結果、
  - \*20年度・・・来場者10万人、（平日は1.4倍 休日は4.0倍の来客）  
会場周辺地域へも賑わい波及効果有り  
会場周辺商店街では来客数売り上げ額ともプラスマイナス  
約30%（=差し引き0）  
アンケートでは恒常的な取り組みを望む声が大  
交通渋滞発生は殆ど無し
  - \*21年度・・・来場者17万人（平日は1.2倍 休日は2.4倍）  
あとは20年度実施と同様な結果

### 3) 鳥取駅前太平線再生プロジェクト基本計画のテーマ

- ・通行のための道路から、これを狭めて生まれた空間を芝生広場とし、ここに商店街の 前庭空間、人々が集う賑わいの空間を創出。
- ・開閉式大屋根設置により天候に左右されない全天候型広場とし年中利用可能とする。
- ・自然に人が集まる（行ってみたくなる）魅力有る空間を創り出す。
- ・地元商店会による芝生広場管理・運用など官民連携を図る。
- ・既存交通の確保。

\*鳥取駅前太平線では、この地域は市内唯一の百貨店があり賑わっていたが、近年は空洞化が顕著で衰退し、車両及び歩行者とも通行量は大きく30%（環状道路が開通し車両交通量がそちらに流れたこともある）も減少して空き店舗も増加、広い車道が人の流れを分断している状況から、道路幅を狭め生まれた道路空間を賑わい創出の場に活用、合わせて歩行者優先で付近商店街への回遊性を持たせている。

#### 4) 今後の課題

- ・歩行者天国や歩道上のオープンカフェ等について警察の道路使用許可（道交法77条）が得にくい（対案→道路区域から外す？ことも視野に入れ検討）。
- ・芝生管理、大屋根の管理運営、各種イベント企画実行。
- ・駅前商店街振興組合や中心市街地活性化協議会等と鳥取市との連携強化。

#### 5. 主な質疑

Q：社会実験は行政が実施するのか？

A：市が国の補助を受けて、市が事務局となった実行委員会で実施した。

Q：H20と21の実証の結果、来客数増だが売り上げ高が減っているが地元理解は？

A：10万人と16万人も来ており集客効果はあった。結果は総ての人がアンケートに答えてないので本当の詳細は不明。外からの出店で地元商店売り上げは減っているかも知れない。

Q：中心市街地活性化法の適用を受けているか？

A：再生基本計画の認定を国から受けている。

Q：事業が本格的に定着した時、地元への来客波及効果は？

A：7月にオープンしたばかりで現時点では分からない。

Q：太平線再生事業を行ったが周辺商店街や個人商店の意識は？新しい店が出来るのか？

A：食品店が4店舗出店してきたが、通常時オープンカフェの開店ができない。警察の道路使用許可が難しい。カフェ設置の歩道部分を道路区域から外し公園化するか検討中。

Q：周辺商店街にも効果を波及させる必要があるか？

A：常にイベントを行い集客する。活性化協議会などが情報交換しながらチラシなど作成している。波及させるのは難しい。

Q：事業費の地元（商店会など）負担は？

A：地元負担無し、国の社会資本整備総合補助金、裏打ちは合併特例債で対応。

Q：16万人も来れば駐車場が不足したのではないか？

A：公共交通機関利用を呼びかけたり、駅周辺に駐車場有り、4カ所について1時間駐車無料券発行で対応。大きな混乱はなかった。

Q：施設維持管理は？

A：委託契約、費用は殆ど市が負担。

Q：イベント中の道路の交通渋滞は？

A：環状道路が開通したことやイベントの期間や時間が決まっているので大きな影響はない。休日は交通量が少ないことも影響している。

Q：客はイベント周辺に集まり他へ行かないと言った不満はないか？

A：効果が未だ分からないのでそのような声は聞いていないが、各商店の努力も必要である。

Q：イベントに客を取られ地元商店に客が来ないこともあるのでは？

A：売り上げに直結しないが、あそこにあんな店があったと覚えて貰え後日利用を期待。

Q：人を集めるためには恒常的にイベントを打つ必要があると思うが？

A：商店会や地元実行委員会が主体的にやってくれているし出演募集もしており、恒常的に実施していく予定である。

Q：観光客を呼び寄せるイベントは？

A：観光客目当てではなく商店街の発展ねらいなので観光イベントはない。また、この周辺には観光資源もない。

Q：中心商店街の数は？また、連合会に幾つ入っているのか？中心市街地とは？

A：連合会8カ所 他には4カ所 エリアは全部含み皆つながっている。

#### 6. 感想

・鳥取市のような人口20万人都市でも、空き家が増え商店街が衰退しているという課題と、何とかしなければならぬという悩みを抱えており彦根と状況は似ている。

・環状道路が完成したとはいえ、駅前の道路を僅かな区間にしろ4車線道路を2車線に縮小しても問題ない（渋滞が起きない）程市内の交通量が減ったのには驚きである。彦根では考えられない。ただ、1回100円の市内循環バスを走らせており、運行回数が多いので結構利用者がある。

・2回の実験では、太平線周辺地域も含んでイベントを実施しているが、それにしても10日間で10万人と17万人近い人が集まったとのことであるが、平均1日1万～

1万7千人もの人が毎日訪れたことになるが、信じがたいような数値である。(カウンターの仕方や範囲の取り方にもよると思える)

- ・大屋根方式による全天候型で、イベント開催時、天候には余り左右されない利点は大きい。

- ・駐車場は駅前付近に4カ所程確保されており、混乱は生じなかった、公共交通機関を利用してもらうよう案内したとのことであるが、これも信じがたいようなことである。何しろ1日1万~1万7千人、休日は4倍もの人が訪れるのであるから。

- ・2回の社会実証実験では、賑わい創出のためイベントを連続して行ったと言うが(今後行うとのこと)現実にはこれが大変と思う。商店会等が入った実行委員会で計画や出演者募集等をしているとのことであったが、ずっと続けることは容易ではないと思われる。

## (2) 考察

- ・沢山の人を集めるためには、連日かしょっちゅう開催できるイベント探しとマネジメントする人材を見つけるのが大変。

- ・彦根中心市街地では、駐車場が不足すると思われる。大型バス等も入れない所が多い。

- ・お城祭りや夏の色々なイベント時においても、僅かな時間帯にもかかわらず交通規制による渋滞や混雑が起きており、連日やしょっちゅうイベントをやることになれば、渋滞や混雑は避けられないと思われる。

- ・太平線では観光資源が無いとして観光客対象のイベントはしていないが、彦根市内には観光資源は有るのでこれを上手く活用する手はある。しかししょっちゅうイベント開催というのは開催も大変だし集客効果も難しいと思われる。

- ・賑わいをイベント開催地域のみならず、周辺地域へも波及させる工夫が必要である。

- ・彦根市中心市街地で太平線再生プロジェクトのような事業を実施する場合を想定する時、こうした多くの課題を解決しなければならず大変難しいと思われる。